

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

2026 年 1 月 15 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 京都大学大学院 工学研究科

職 名・学 年 助教

氏 名 深谷 菜摘

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	環太平洋国際化学会議2025 The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025		
発 表 形 式	<input checked="" type="checkbox"/> 招 待 ・ <input type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他(		
発 表 題 目	Effect of Side Chains of a Supramolecular Polymer on Hierarchical Structure and Viscoelasticity		
開 催 場 所	ハワイ・ホノルル・Hawaii Convention Center		
渡 航 期 間	2025 年 12 月 15 日 ～ 2025 年 12 月 20 日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	250,000 円	
	使用した助成金額	250,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	246,250
		宿泊費	245,543
		滞在費	160,000
		学会参加費	114,845
その他	21,864		
以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は国際学会への参加に際し、助成を賜り、誠にありがとうございました。貴財団のご支援により、研究成果の発表ならびに研究者間の交流を行うことができました。貴事業が今後も継続され、多くの研究者にとって学術的な挑戦と成長の機会を提供し続けることを、心より祈念申し上げます。		

## 成果の概要 / 深谷 菜摘

### 1. 国際会議の概要

Pacificchem (The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies) は、環太平洋地域の化学関連学会が共同で主催し、概ね 5 年ごとにホノルルで開催される国際会議である。Pacificchem 2025 は、2025 年 12 月 15 日～20 日に米国ハワイ州ホノルルで開催され、主要会場として Hawaii Convention Center 等が使用された。会期中は多様な分野のシンポジウムおよびポスターセッションが実施され、アジア・北米・オセアニアを中心に、大学・研究機関・企業から多数の研究者・学生が参加した。

### 2. 発表の概要

発表タイトル：Effect of Side Chains of a Supramolecular Polymer on Hierarchical Structure and Viscoelasticity

著者：深谷 菜摘 (発表者), 古川 悠布香, 佐藤 蓮, 片島 拓弥, 梶谷 孝, 杉安 和憲

本発表では、超分子ポリマーの側鎖設計が超分子ポリマー鎖の構造および粘弾性に与える影響について検討し、構造-物性相関の観点から議論した。会場では、測定・解析手法の妥当性、データ解釈、今後の展開（追加実験や比較系の設定）に関して建設的な質疑を得た。

### 3. 交流・ネットワークの構築

会期前日を含む滞在期間中、多様なセッションに参加し、普段は直接議論する機会の少ない海外研究者と活発に意見交換を行った。特に、招待講演として参加したセッションでは、当該分野で著名な研究者からコメントや助言を得ることができ、極めて有意義であった。これらを通じて、関連分野の最新動向や研究上の課題設定に関する具体的な示唆を得るとともに、今後の情報交換および共同研究に向けた連携の基盤となる研究者ネットワークを構築できた。

### 4. 謝辞

本助成により国際会議へ参加できたことは、日常の研究活動では得難い知見の獲得と、国際的な研究交流の促進に資する貴重な機会となった。ここに深く感謝申し上げる。今後は、得られた知見およびネットワークを研究の推進と成果発信に活用し、我が国の科学技術力の向上に微力ながら貢献していきたい。